

株式会社近藤精機製作所

<http://userweb.alles.or.jp/kss-hp/>

電力使用の抑制を徹底し、職場環境の改善も果たす



社屋外観

- 事業内容:精密ゴム金型設計・製造
- 代表者:代表取締役社長 近藤 豊 氏
- 本社所在地:埼玉県草加市柳島町656
- 創立年:1948年
- 従業員数:35名
- 認証レベル:エコステージ1 (2009年6月取得)

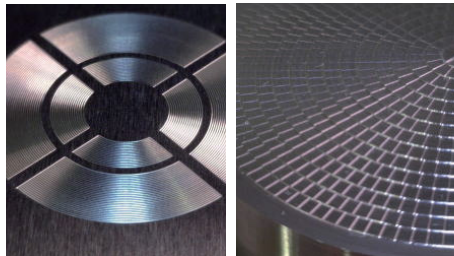
主な環境活動項目

- (1) 電気使用量の削減
- (2) 廃棄物の削減
- (3) 不良工数の削減
- (4) 教育訓練の充実
- (5) 法令順守の徹底

背景・課題

取引先企業の信頼に応え、 従来業務の見直しにも活用

近藤精機製作所様は、創業以来60年以上にわたり、自動車関連部品、IT関連部品、医療用部品など、多岐にわたる精密ゴム金型を製作してきた会社です。徹底した品質管理に基づき、高精度な製品とユーザーのニーズに誠意をもって応える企業姿勢が信頼を得てきました。取引先には環境配慮に熱心な企業が多く、信頼ある取引を継続するには、環境に配慮した経営が求められ、同時に環境活動は時代のニーズでもあると認識されていました。これをきっかけにEMSの検討を重ね、エコステージがPDCAの考え方と重なり、業務の見直しや従業員の教育・研修活動にも役立つと期待され、導入を決定しました。



■金型製品

活動内容

デマンドコントロールを導入、 不適合製品の発生原因を追求

NC旋盤、NC放電加工機、高速マシニングセンタなど、同社では金型製作に欠かせない多種多様の設備を多数設置していることから、電力負荷の抑制、電気使用量の削減が経営上の大きな課題となり、デマンドコントロールを導入しました。また、主力製品の金型の不適合品発生率の低減も重要と考え、発生状況の把握やデータ調査・分析を図っていききました。環境法規制の順守活動としては、工作機械から発生する廃油や段ボールなどの廃棄物処理、コンプレッサーに係る騒音対策など注意すべき法令も幅広いため、その理解徹底を全従業員に対して図っていききました。

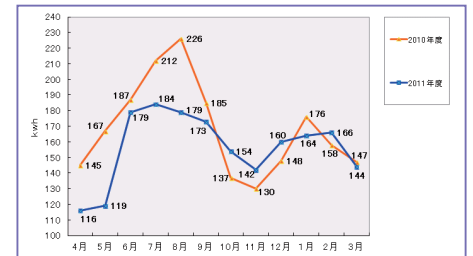


■電力消費の大きい設備に対しデマンドコントロールを導入

効果

最大需要電力を大幅に抑制、 5Sにより職場環境も変化

デマンドコントロールによって、契約電力の抑制を行うとともに、きめ細かい使用管理を実現。最大需要電力は220kWから184kWに抑制することができました。不適合品については、データ調査・分析の力量が向上するとともに、同類の発生を抑制することができました。廃棄物については、従業員意識を徹底させることによって、段ボールは4分の1、廃棄プラスチックは3分の2の量に削減しました。また、法規制を特定することによって、定期的に順守状況を確認できるようになっています。さらに、5Sの徹底により、職場環境の快適性が向上したことも、目に見える効果の一つです。



■最大需要電力(kw)の推移

今後の計画

営業・設計・製造が一体となったものづくりの原点の質を高めることが、今後の課題。そのため、従業員の力量の向上が欠かせず、教育訓練・研修の充実を行い、技術の共有化、多能工化、熟練化を図るとともに、営業力の向上も行い、顧客ニーズに柔軟に対応していく予定です。

担当評価員からのメッセージ

社長の真摯な経営姿勢を反映し、エコステージの利点がよく発揮されています。その一つが、5Sの徹底に見ることが出来ます。新規取引先企業が工場視察し、整理整頓された現場は高い評価を受けました。その他、不適合品の削減については継続的改善が図られ、電力使用の抑制には必要な投資が行われています。